

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 7月26日 更新

事務事業名		ハンセン病啓発事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	教育の健康			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	飯開輝久雄
	施策	12	人権が尊重される社会づくり			所属課	人権啓発教育課	担当者名	二瀬義継
	施策の柱	43	人権尊重についての理解と相談体制の充実			所属班	啓発教育班	(内線)	2511
予算科目		会計一般	款3	項1	目8	事業連番10860	根拠法令	ハンセン病問題の解決の促進に関する法律	
								成果優先度評価結果	①
								コスト削減優先度評価結果	⑦
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 9 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	ハンセン病問題を正しく理解するための人権啓発事業である。 ハンセン病を正しく理解する週間に合わせて、講演会等の催しを実施する。具体的には、講演、菊池恵楓園から借用したパネル展示などを実施している。平成8年の「らい予防法」の廃止を受け、平成9年、町民のハンセン病問題に対する正しい知識の普及・啓発と、また、療養所入所者と町民との相互交流をより進めていくために開始した。取り組みを始めた頃に比べると、市民のハンセン病問題に対する理解は深まってはいるが、参加者のアンケート調査等で菊池恵楓園を知らない人もまだまだ多いことから、市民に対する理解と啓発を進めていく必要がある。
【業務の流れ】	①事業内容、日時、場所等の検討と決定。 ②講師依頼と展示物等の手配。 ③広報、ホームページで講演会開催の周知を図る。(各団体等へ開催案内送付) ④講演会等の実施 ⑤アンケート等の実施 ⑥アンケート結果の解析。
【主な予算費目】	報償費、需用費、役務費
【意見や要望】	議会からは、「市民への周知に工夫をするように」との意見がある。 菊池恵楓園入所者自治会からは、本事業を開催していくことを要望されている。 アンケートでは、「このような講演会があれば、また参加したい」との声がたくさんある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO) ハンセン病問題啓発事業として、平成29年3月11日(土)に、菊池恵楓園内で菊池恵楓園歌声交流広場を実施した。 参加者 約200名		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 熊本地震により、ヴィーブルが使用できず、前年は菊池恵楓園内の恵楓会館で実施した。本年も会場をどこで実施するか課題が残る。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 講演会等の開催回数	回	昨年ハンセン病問題の啓発用DVD「新・あつい壁」購入したことによる減
→ イ: 参加者数	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民		→ ア: 人口
市内事業所社員等		→ イ: 市内従業者数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
ハンセン病問題を正しく理解してもらう。		→ ア: 正しく理解した参加者の割合
		→ イ: %
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
参加者にハンセン病問題を正しく理解してもらうことが意図のため。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移											
		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込	
① 活動指標	ア回		1	1	1	1	1	1	1	1	
	イ人		580	662	400	200	400	400	400	400	
② 対象指標	ア人		59,067	60,007	60,100	61,000	61,000	61,500	62,000	62,500	
	イ人		17,521	17,521	18,000	18,850	18,000	18,000	18,000	18,000	
③ 成果指標	ア%		100	100	100	0	100	100	100	100	
	イ										
投資 事業 入費 量 人件 費	財源 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	181	171	3,593	3,593	355	352	352	352
	(A) 事業費計	千円	181	171	3,593	3,593	355	352	352	352	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規職員従事人数	人	5	2	6	3	6	6	6	6	6
		延べ業務時間	時間	295	210	300	300	300	300	300	300
		(B)人件費計	千円	1,175	779	1,195	0	1,195	1,195	1,195	1,195
	トータルコスト(A)+(B)		千円	1,356	950	4,788	3,593	1,550	1,547	1,547	1,547

事務事業名	ハンセン病啓発事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	人権啓発教育課
-------	-----------	-----	-------------	-----	---------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】 参加者のアンケートからも理解の促進が図られていることがうかがえる。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 次年度も各団体に対し、参加依頼を行う。また、広報紙等により市民に参加を呼びかけていく。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 参加者の理解促進は図れているので講演会における成果は満たされているが、開催内容を検討し、さらなる参加者数の向上を目指す。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似事業はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 啓発事業を推進するうえでは、最小限の事業費であり、これ以上の削減はできない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 本事業にも、職員は、少人数で対応しており、内容、講師の設定、他のイベントとの日程の調整に時間を要している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市民全般に事業への参加を呼びかけており、また、すべての市民がハンセン病問題を正しく理解することが必要であるため、本事業を開催することは、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 人権問題の啓発は行政の責務であり、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

熊本地震の関係で、会場を菊池恵楓園で実施した。内容についても多くの参加者から「良かった」との声があった。今後も内容と周知方法に工夫をして、より多くの市民にハンセン病問題を正しく理解できる機会の提供に努める。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 音楽や映画等、視覚聴覚に訴えた啓発事業を検討する。				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持		○																									
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 いまだに現存するハンセン病に対する間違った認識を正し、差別を解消していくために、今後もあらゆる手法を使いながら継続的に啓発を行っていく。																												